

キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テコ盛り。

# つひまぶ

つながるひとまちぶんか

春号 3 2015 月号

北区魅力発信フリーペーパー「つひまぶ」vol.4 2015年3月27日発行(毎年3・7・11月発行予定) 編集・発行:つひまぶ実行委員会/大阪市北区役所+北区のおもろ通信団(浅香保ルイス龍太・おじまあきら・棚橋真理・藤堂千代子・山田寿也・山本宜弘・依藤智子)+大阪市職員ボランティア 連絡先:大阪市北区役所(大阪市北区扇町2-1-27) [tel] 06-6313-9743 [fax] 06-6362-3821 [mail] tsuhimabu@gmail.com [blog] http://tsuhimabu.blogspot.jp (誌面に載せられない情報はブログでね♡) 定価:0円 主な配布場所:大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンターほか多数(配布場所はブログにて随時お知らせします) ※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。



「上方 第五十六號」より「盂蘭盆会 七墓巡りの図・長谷川貞信」

アンテナはっつけよ!

いろんな人が、おもろいことやっています。

北区の活動情報

北区内で活躍するボランティア団体

まちで活躍しているボランティア団体をピックアップ。興味のある方は、連絡してみてください。

歌体操 輝くバラの会

●第2金曜ほか ●豊崎東会館(長柄西1-1-39)  
●16年続いているのは、楽しくて元気になるから! 最高齢はなんと90歳の男性! 歌に合わせて体操を考えたり、デイスサービスや老人会などで披露しています。体操をすれば、体スッキリ、笑顔になります。研修会は北と大淀の老人福祉センターでも月2回ずつ開催中。

問 梶山 ☎06-6776-0069

絵本の会北

●例会は第1火曜 ●北図書館(本庄東3-8-2)  
●図書館や保育所、幼稚園などで年60回以上絵本の読み聞かせをしています。やればやるほど奥が深く、難しさを感じますが、ダイレクトな子どもたちの反応と、素晴らしい絵本との出会いが楽しみです。結成から13年、メンバーそれぞれの世代の良さを活動に生かしています。

問 北図書館 ☎06-6375-0410

おもちゃ病院

●第1土曜 13:30~16:00 ●大淀老人福祉センター(本庄東1-24-11) ●おもちゃの無料修理の病院です(部品代は実費)。その場で修理できない場合は、入院(預かって修理)することも。直せなかったときはごめんなさい! でも、持ち主の喜ぶ顔を楽しみに活動しています。新ドクター、いつでも募集中!

問 大淀老人福祉センター ☎06-6374-0873

かみやまカフェ

●第3火曜 13:00~15:00 ●北区社協(神山町15-11) ●若年性認知症と初期認知症の方のデイスサービス。病気があってもあたりまえの生活を、生きがいもやりがいもある! そんな人たちが月イチでカフェをオープンしています。ドリップコーヒー(100円!)を入れてくれたり、歌声喫茶を実施。夏には流しそめんも!

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

関西相撲甚句会

●第1・3月曜 ●研修会は北千里公民館(吹田市古江台4-2-D7) ●相撲甚句とは江戸時代から続く独特な節回しと情緒ある歌詞の唄です。巡業相撲の土俵で力士が輪になって唄ったりします。お腹から声を出して唄うのはとても気持ちがいいです。北区内のデイスサービスなどで活動中。呼ばれたら出陣しますよ〜。

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

北区傾聴ボランティアの会

●第2・4土曜 ●区内高齢者施設 ●ひとり暮らしの方は話し相手を探しています。「こころの声」を聴いてあげよう! 平成24年7月からスタート。待っていただくのと、お話を聴くと喜んでくださるので、とてもやりがいを感じます。活動範囲を増やしたくて、養成講座を開催してのメンバー募集もおこなっています。

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

北ボラ マスコットクラブ

●毎週火曜 ●北区社協(神山町15-11) ●「輪に和になろう」を合い言葉に、集まってかわいいマスコットをつくっています。何をつくらうかと相談し、手を動かしてつくっていくのが楽しくて、イベントと一緒に楽しく喜ばれて2度楽しい。幼稚園やデイスサービス、お祭りなどのイベントに出かけています。

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

キッズプラザ大阪 インタープリター

●月に数日(登録制) ●キッズプラザ大阪(扇町2-1-7) ●キッズプラザ大阪にとって、開館当初からなくてはならない存在。展示フロアやスタジオ、パソコンフロアでの遊び方など、子どもたちが安心して楽しく遊べるようにサポート。幅広い年齢層(現在18歳から84歳まで)での活動が刺激になっています。

問 キッズプラザ大阪 ☎06-6311-6603

日本ボランティア研究会 Entie

●第1日曜 8:30~9:30 ●研究会事務局(天神橋3-1-40 相生マンション1階) ●月イチで商店街を掃除。美化活動を通じて地域のネットワークづくりを目指しています。傾聴ボランティアやお手紙の代筆活動、スクール活動も。各種ボランティア団体の中間支援を目指し、多方面で活動しています。HP (http://entie.org/)

問 Cafeクルミ内 研究会事務局 ☎06-4981-9284 / info@entie.org

バルーンアート 同友会

●勉強会は第2土曜 ●大阪市立総合生涯学習センター(梅田1-2-2-500 大阪駅前第二ビル5・6階) ●バルーンを見て「こんなものつくれるの?」とびっくりされます。一緒につくったり、あげたときの笑顔がまた嬉しい! 幼稚園や保育所、高齢者施設の他、イベントの要請多数で、気が付けば年間100日以上も活動中。

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

北朗バラの会

●第2・3・4水曜他 ●北区社協(神山町15-11) ●区の広報紙や社協だよりを朗読し、CDに録音し視覚障がい者の方たちに届ける音訳ボランティアです。他、新聞記事や雑誌記事を独自にセレクトして朗読した「花束」も。音訳は、通常の朗読と違い、感情を交えず正確に伝えるのが肝要。興味のある方はぜひ!

問 北区ボランティア・市民活動センター ☎06-6313-5566

編集後記

今号は「巡礼」です。この号をついている間に、阪神・淡路大震災から20年の節目の1.17を迎えました(つひまぶはみんながボランティアでつくっているために、製作ベースがとてゆるやかなのです)。その日、僕は早朝の三宮・東遊園地を目指して、夜の大阪を出発しました。20年前、仲間を助けるために歩き通したあの道を、夜通し歩いたのです。これは僕にとっての巡礼で、その間、さまざまなことを思い出し、身に刻み、明日への糧とします。昨今の巡礼ブームは、そのような、足元を見つめ直す人が増えていることに起因しているような気がします。交通手段の発達には僕たちをあっという間に目的地へ連れていってくれます。ネット環境の発達も、そこへ行かなくても、行った気になってしまうほどの強いバーチャル感をもたらします。巡礼は、そうしたテクノロジーの流れに逆行する行為です。ゆっくりと、自分の足で、足元を見つめ直すための時間は、たっぷりあります。春です。巡礼に出て、自身の内面を見つめ直してみたい人のために、この号が一助となれば。(浅香保ルイス龍太)

「つひまぶ」ブログ 毎週月・木更新 http://tsuhimabu.blogspot.jp

「つひまぶ」では、編集メンバーを随時募集しています。興味がある方は、Facebookにてご連絡いただくか、大阪市北区役所魅力創造課 (tel. 06-6313-9743) までご連絡ください。





中崎町の山伏・青山隆一さんに聞く

# 人はなぜ巡礼をするのですか？

企画・取材・構成・文・撮影／浅香保リス龍太

5年前の夏、当時、黒崎東商店会長をされていた青山隆一さん（現中崎・北天満商工倶楽部会長）に、山伏数人で道頓堀の地藏尊を巡るので見に来ませんかと言われた。

道頓堀？ 山伏？ わけがわからないまま行ってみると、僕の知る商店街の青山さんではなく、頭に頭襟（と きん）を被り、白装束に豹革の引敷（ひっし き）を掲げ、手には法螺貝を持った青山さんが、そこにはいたのだった。仲間山伏と列をなし、法螺貝を吹きながら、お経を唱えながら、道頓堀の歓楽街を練り歩いている。こゝなまちなかにも山伏がいるのかと驚くと同時に、山伏の姿になった青山さんがとても新鮮だったのを覚えている。道頓堀にある六地藏を巡る、一種の巡礼でのことだ。

そのときに初めて、青山さんが、熊野修験に属しておられる山伏だと知った。熊野修験の主宰者は、西国三十三所巡礼の1番札所として有名な青岸渡寺の高木亮英副住職。明治の廃仏毀釈で廃れた「奥駈（おくが け）」を復活させたおひとりでもある。

奥駈とは、熊野と吉野の聖地を結ぶ約170キロ、標高1200〜2000メートルの急峻な山岳が連なる大峯山脈の尾根を縦走する、極めて過酷な精神修行の場だ。修験道の開祖である役行者（えんのぎょうじや）によって拓かれた。1300年の伝統を持つ山岳信仰の聖なる道で、ユネスコの世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」のひとつでもある。熊野本宮から吉野に向かう「順峯（じゅんぶ）」と逆ルート「逆峯（ぎやくぶ）」があり、熊野修験では順峯をおこなう。

青山さんはもちろん、何度も奥駈を経験してこられた。奥駈には春の峯入と秋の峯入があり、数回に分けて75の靡（なびき）を踏破する。「春の峯入では、青岸渡寺から那智本宮までの約38キロの山道を1日で駈けます。那智本宮が閉門するのは夕方の5時だから、朝の5時

の幸福を願い、世間のためになにかをしていただけら、と」青山さんは、天理教の教えである「人を助け、我が身を助ける」を信じておられる。自身が誰かのために汗をかくこと、自身の時間を誰かのために割くこと、つまり、自身の身体を供すること。金品を供するのなら、貧乏人には供すべきものがない。でも、「自身の身体を供するのなら、貧富の差によらず、誰でも等しくできます」。

修験道に入られたきっかけは、「小さい頃、僕が住む中崎町には、古い師などの目に見えない力を持った人がたくさんいました。僕の店にもそんな人がたくさん出入りしていた。身近にそういう人の存在があったことで、信仰を通して修行している人（仏教・キリスト教・天理教など）に自然と興味がありました」。

「25年ほど前に、龍王講社大阪千年組に、大峯山に誘われたんです。そのときは白装束ではなくて、普通の格好ですよ。その後、興味膨らみ、修験道も勉強してみようと、わりと簡単な気持ちで修験の道に入られたそうです。

千年組では、山伏になるには、3度の入峯（奈良県河川より山上ヶ岳・山上寺を走破）をおこない、龍泉寺の住職から「先達」の称号をもらう。そのとき、装束を着ることを許され、正式に山伏となる。その後、6度の入峯を経て「中先達」となり、約10年後に「天先達」になる。青山さんは現在、「天先達」である。修験道には、厳しい戒律や掟があるわけではない。在家でOK。日



【青山隆一（法名・隆峰）】熊野修験 行者／中崎・北天満商工倶楽部 会長 生まれも育ちも中崎町。高級婦人服を扱うお店「モードサロン・マルワ」を経営する傍ら、子育てママ／子育てよろず相談所「興学院」を運営するなど、商店会活動や地域活動に積極的に取り組む。区政会議員でもある。

には青岸渡寺を出発しないと間に合いません。さらっとおっしやるが、38キロの山道を12時間踏破するのだから、想像を絶する。それでも、一般参加を含めて150人前後の人が参加する。3月の山はまだ肌寒いと思うのだけれど、「雨が降っているほうがラク。晴れると暑く、しんどい」のだそうだ。

「大雲取山を越えると昼食となり、次の小雲取山が字面だけを見ると大雲取山よりもラクそうに見えるために、少しホッとするんです。でも、実際には小雲取山は急峻で、越えるのがとてもしんどい。ここが一番しんどいですが、小雲取山を越え、那智本宮へ到達すると、いったん終了です」。

その後、南奥駈道と称する那智本宮から前鬼（ぜんき）までの行程のうち、4月に那智本宮から玉置山頂に座する玉置神社までの約30キロを1日で走破し、5月に玉置山から前鬼までを1泊2日で行く。前者は標高差なんと2000メートルの道だ。後者は、行仙（ぎょうぜん）の山小屋に泊まる。この道と山小屋は、新宮山彦グループが中心となり、奥駈に縁のある寺社が協力すれば、廃れた道を再度拓いた。この小屋がなければ、このルートを走破することはできないのだから。

秋の峯入は、前鬼から吉野までを2泊3日で行く。初日は、釈迦ヶ岳から弥山（みせん）までの約30キロ強を走破する。このときに泊まる弥山の山小屋は、関西でも最も高いところにある山小屋だ。翌日、山上ヶ岳（さんじょうがけ）にある桜本坊（さくらもとぼう）の宿坊に泊まり、3日目に、順峯の最終靡である第75靡の柳の宿（やなぎのしゆく）まで駈け、奥駈が完遂する。

巡礼と呼ぶには激烈すぎる修行を、山伏たちはなぜおこなうのだろうか？ 心身の鍛錬だけなら、方法は他にいくらでもある。青山さんはおっしゃる。

「僕は高木導師より、『菩薩道』を教わりました。奥駈を経験することで、家族や周りの人

頃は仕事をしながら、「擬死再生」するために山へ入る。擬死再生だから、白装束を着るのだ。卑近な言葉にすると、リフレッシェ、ということになる。

もう一度、山に入り、何を感じるのかを聞いてみた。

「僕もあと1年で60歳になります。自分の人生を逆算し、これからの生きかたを見つめ直す、立派な家に住みたいとか高級外車に乗りたいといったお金もうけにあくせくするのは、人々のためや周りのためとしようことを、考えるんですよ。保育ママをはじめたのも、子育てのよろず相談をやっているのも、そういうことを考えてのことです」。

そう、青山さんは今、「商店街の保育ママ／よろず相談所『興学院』」を軌道に乗せんと奔走されているのだ。

4月からは認可保育園となり、0歳児1人、1歳児2人、2歳児2人を預かる。保育士は現在7人いて、3月〜4月には開所式の護摩焚きをおこなうのだとか。

「親が子どもを置き去りにして殺した事件を見て、子育てのことを気軽に相談できる場所があったらなあ、と思ったんです。だから、保育園だけでなく、全国商店街振興組合連合会の地域商店街活性化事業補助金を活用して、『子育てよろず相談所』と北天満地域社会福祉協議会と連携した『まちともサービス』を併設させていただきました。少しでも、子育てママさんたちのストレスや悩みを解消できたら、残り少ない人生を考えたとき、

## 【巡礼は誰でもできるの？】

巡礼のはじまりも諸説あります。現代では、信仰の証しとしての巡礼だけでなく、健康のため、観光を兼ねて、癒しを求めて、休日に気軽に寺社を巡る人が増えています。もともとこうした傾向は今にはじまったことではなく、江戸時代には、すでに、全国各地に巡礼講が組織され、物見遊山の巡礼が盛んにおこなわれました。そのためのガイドブックや旅行代理店すら、世界に先駆けて存在したと言います。巡礼は、今も昔も、観光と分かち難く結びついています。寺社を巡るのみならず、アニメの聖地をまわる巡礼、パワースポット巡礼、純喫茶巡礼、讃岐うどん巡礼…、心を惹きつけるなにがしかのスポット（聖地）を目指す行為は、すべて、巡礼と呼ぶことができるかもしれません。また、霊場を形成する寺社の側も、各地域と結びつき、訪れる人を増やす手段として巡礼を利用して側面もあります。そうした門戸の広さ、敷居の低さが、昨今の巡礼ブームに拍車をかけているのかもしれない。

## 【どんな巡礼があるの？】

記憶に新しいところでは、2004年に世界文化遺産にその巡礼路が登録された「熊野詣で」や遷宮で大変な盛り上がりを見せた「伊勢参り」。有名なところでは、四国の「お遍路」や「西国三十三所巡礼」、東日本には「坂東三十三観音」があります。また、海外に目を転じると、イスラム世界でとりわけ重要視されるメッカ巡礼の「ハッジ」、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラにあるキリスト大聖堂を目指す「カミノ・デ・サントヤゴ」などがあります。巡礼ポイントルートをしたがって巡る回遊型、目的地を目指して帰ってくる往復型を問わず、巡礼は、世界のさまざまな宗教・文化で見られ、現在では、信仰の如何にかかわらず、リフレッシェや癒し、人生回顧、自分探しのために巡礼に出る人が増えています。



©むしまつ

## 【巡礼で準備するものは？】

本格的にそろえるとなると、巡礼用品にはたくさん種類があります。たとえば、四国のお遍路を例にとると、日除け雨除けの菅笠（遍路では自分ひとりだけでなく弘法大師と一緒に、という意味で「同行二人」と書かれています）、弘法大師が宿っているとされる金剛杖、礼拝の正装具である輪袈裟、白衣、納経帳、歩きやすい脚絆。モノの本に書かれているすべての巡礼用品をそろえるとなると、結構な費用がかかります。また、巡礼用品も、巡礼の種類によってさまざまです。カタチから入るのも一興ですが、歩きやすい普段の格好で巡礼に出かけても、まったく問題ありません。写真が趣味の方はカメラを片手に。絵を描くのが好きな方は画材道具を一式持って。巡礼と違って構えるのではなく、自分の足で歩いて、時間をかけて、思索を巡らせながら、そこを訪れるまでのプロセスに意味があるのだということ踏まえ、まずは気楽に第一歩を踏み出してみるのはいかがですか。そうそう、御朱印を集めたい方は、御朱印帳を忘れずに。



©むしまつ

僕ができるせいっぱいのことは、そんなこととです」。

修験道から保育園。関係ないように見えて、青山さんのなかでは一直線につながっているのだ。ご自身の家系である仏教、天理教、山伏としての修行、巡礼を通じて、青山さんが出した答えのひとつが、ここにはあるような気がした。

最後に、昨今の巡礼ブームを受けて、これから巡礼に出ようとする人たちにに向けて

言葉をお願いした。 「山へ入る、お寺へ入るのなら、自分を見つめ直し、残された時間を少しでも人助けや社会のためにね。巡礼をしながら、そんなことを考えていただけたらと思います。その人の宗教がなんであれ、ね」。 そう。宗教のような堅苦しいものではないのだ。その人が、自身を見つめ直し、社会のために何ができるのかを探る。それが、巡礼なのだ、と。青山さんのその言葉は、宗教者としてのそれではなく、市井の先輩の言葉として、僕の胸に響いたのだった。（終）





# なにわ七幸めぐり

大阪天満宮 万力康司 権禰宜さんに聞きました

昨年10月、JR大阪駅の南グレート広場に祈禱室が開設された。宗派を問わず利用できる施設で、男女別々に礼拝できるようにしている。また、礼拝前に身体を清めるための「小淨施設」も設置されている。利用の際は事前にインフォメーションへ。【巡礼こたえ】

「なにわ七幸めぐり」は、昭和58年（1983年）の「大阪築城400年まつり」を皮切りにじまった「大阪21世紀計画」のなかで、堺屋太一氏の提唱で7社寺が宗派を越えて集まり、生まれました。かつては巡礼でにぎわった社寺に再び市民や観光客を呼び、日本人の生活に根付いてきた伝統・文化を再認識してもらうことを目的としています。選ばれた7社寺は、大阪天満宮（学業成就）、住吉大社（厄除祈願）、四天王寺（家内安全）、大念佛寺（諸芸上達）、四條畷神社（心願成就）、太融寺（無病息災）、今宮戎神社（商売繁盛）。歴史があり、多

くの人々に愛されている大阪を代表する社寺ばかりです。7社寺を巡ると、七徳・七才を授かり、ご利益があるとされています。また、「七」は「ラッキーセブン」にもつながるので、縁起がいいということも。昭和63年（1988年）からは、7のつく日に、各社寺持ちまわりで「七幸市」を開催。大阪天満宮では、毎年2月第一日曜に開催します。今年も天神橋筋商店街のお店を中心に、物産展や境内で復活した天満名水「天満天神の水」を販売、大道芸や紙芝居でにぎわっていました。（三）



●なにわ七幸めぐり  
(<http://www.geocities.jp/naniwa7kou/>)  
北区内にあるのは、大阪天満宮（天神橋 2-1-8）、太融寺（太融寺町 3-7）

- 大阪天満宮
- 大念佛寺
- 住吉大社
- 今宮戎神社
- 太融寺
- 四條畷神社
- 四天王寺

## 大阪新四十八願所 阿弥陀巡礼

専念寺 木村啓良 住職さんに聞きました

江戸時代、各種の巡礼が盛んにおこなわれるようになるなか、まず、「大坂四十八箇寺阿弥陀巡礼」が成立します。

当時の大阪の寺院より48寺がセレクトされ、阿弥陀さまの四十八願とその内容を詠った和歌が各寺院に配当され、多くの人々がその寺院に参拝し、ご詠歌と念仏を唱えて巡礼していく……。そう、この巡礼は念仏信仰の巡礼でもあったのでした。念仏を唱えて極楽浄土への往生を願うことが、この巡礼の目的でした。大変ににぎわった巡礼だったそうですが、栄枯盛衰、やがて途絶え、廃寺になったお寺さんも出てきたそうです。

再興したのは、平成23年。法然上人八百年大遠忌を迎えたのを機に、装いを新たに「大阪新四十八願所阿弥陀巡礼」が生まれました。北区内のお寺さんも6寺含まれており、かつては天満の寺町にあったお寺さんもいくつかあります（現在は移転）。大半が大阪市内にあり、まちなかのお寺さんがほとん



第十番願所・専念寺にある、珍しい3つの鐘「三心の鐘」

どで、非常にアクセスしやすい巡礼。一方で、各願所には和歌が配当されている、珍しい巡礼でもあります。（ル）

●大阪新四十八願所阿弥陀巡礼  
(<http://www.osaka-amida48.net/>)  
北区内にある願所は、二番・源光寺（豊崎 2-3-23）、三番・蟠龍寺（野崎町 4-1）、四番・冷雲院（野崎町 4-4）、五番・智源寺（天神橋 3-3-10）、八番・善導寺（与力町 2-5）、十番・専念寺（同心 1-1-5）

- 一番 法住寺
- 二番 源光寺
- 三番 蟠龍寺
- 四番 冷雲院
- 五番 智源寺
- 六番 大鏡寺
- 七番 大長寺
- 八番 善導寺
- 九番 運潮寺
- 十番 専念寺
- 二番 伝長寺
- 三番 最勝寺
- 四番 慶傳寺
- 五番 寶樹寺
- 六番 法藏院
- 七番 大善寺
- 八番 慶恩院
- 九番 長安寺
- 十番 大福寺
- 二番 天性寺
- 三番 正念寺
- 四番 西光院
- 五番 誓願寺
- 六番 専念寺
- 七番 一心寺
- 八番 白雲寺
- 九番 大雲寺
- 十番 西念寺
- 二番 善福寺
- 三番 圓通寺
- 四番 安樂寺
- 五番 圓通寺
- 六番 西住寺
- 七番 源聖寺
- 八番 宗念寺
- 九番 淨國寺
- 十番 淨念寺
- 二番 法善寺
- 三番 長安寺
- 四番 法善寺
- 五番 淨國寺
- 六番 淨念寺
- 七番 法善寺
- 八番 法善寺
- 九番 法善寺
- 十番 法善寺

## 摂津国八十八ヶ所 霊場巡り

寶珠院 尾山慎 後任住職さんに聞きました

四国のお遍路が八十八ヶ所の札所を巡るものなら、こちらは、摂津国の霊場を八十八ヶ所巡ります。どちらも八十八ヶ所。これは偶然ではなく、江戸時代中期（1700年代）に真田山観智院（現在の第十六番・観音寺）の月海上人が、四国のお遍路を模して開いたとされています。したがって、本尊は如来さまから菩薩さままでさまざまだけれども、霊場のほとんどは、弘法大師の真言宗で構成されています。

現在でも京都・仁和寺に行けば、「御室八十八ヶ所」という四国への巡拝が困難な人のためのお遍路ミニチュア版がありますが、それとおなじことで、四国へ行かずとも摂津国で巡礼できるよう、霊場を開いたというわけです。仏教、引いてはアジア文化にはそのような合理性があります。

江戸時代には熱心な弘法大師信仰に支えられて隆盛を極めた「摂津国八十八ヶ所霊場巡り」だけれども、明治の廃仏毀釈、さらには大阪大空襲による被災などで多くの寺院が灰燼に帰したため、近年は長らく途絶えていました。

復興したのは、昭和55年（1980年）。第十四番・六大院住職の尽力で全寺院が結集し、霊場再興が成し遂げられたのだそうです。

摂津国とは、大阪府の北部と兵庫県の一部。八十八ヶ所の約半分が大阪市内に点在し、それ以外の霊場も、吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、箕面市、池田市、宝塚市、川西市、西宮市、神戸市と、比較的近いところばかりです。北区内だと、第六番・太融寺、第九番・國分寺、第十番・寶珠院の3霊場があります。週末に日帰りで3つくらいまわって、次の週にまた3つほど……。というかんじで、わりと気軽に巡ることができるのが、この巡礼のいいところです。専用の御朱印帳も、各霊場で安価に販売されて



第十番霊場・寶珠院

います。もちろん、普段着で大丈夫。ほとんどの人がカジュアルな格好で巡っています。ただし、巡礼なので、あまり突拍子もない格好ではなく、まあ、普通の普段着で。有名寺院もたくさん含まれているし、まちなかにあるお寺さんもあれば、まちなか少し離れた場所にあるお寺さんもあり、なかなかバラエティに富んでいます。巡礼のいいところは、そこに霊場があれば一生訪れることがないであろう場所へ行くことができるということです。訪れたことのない場所でも、新しい出会いや発見があるかもしれません。さらに、「摂津国八十八ヶ所霊場巡り」では、たくさん種類の仏像に出会うこともできるので、さまざまな仏像の名前が墨書された御朱印を集める楽しみもあります。

昨今は、巡礼ブーム。信仰のみならず、自分探しや癒やし目的で巡る人もたくさんいます。もちろん観光目的の人も。有名な四国のお遍路や西国三十三所巡礼は、いつどの札所を訪れてもたくさんの方が参拝してにぎわっているけれど、「摂津国八十八ヶ所霊場巡り」はそれほどでもなく、静寂のなかでゆっくりと参拝することができるところから、この巡礼はおすすめてです。（ル）

●摂津国八十八ヶ所霊場巡り (<http://www.enmanji.com/syuin.html>)  
北区内にある霊場は、六番・太融寺（太融寺町 3-7）、九番・國分寺（国分寺 1-6-18）、十番・寶珠院（与力町 1-2）

- 一番 法家寺
- 二番 三津寺
- 三番 和光寺
- 四番 了徳院
- 五番 持明院
- 六番 太融寺
- 七番 富光寺
- 八番 不動寺
- 九番 國分寺
- 十番 寶珠院
- 二番 善福寺
- 三番 興徳寺
- 四番 大日寺
- 五番 六大院
- 六番 観音寺
- 七番 正祐寺
- 八番 宗恵院
- 九番 藤次寺
- 十番 自性院
- 二番 報恩院
- 三番 持明院
- 四番 徳徳寺
- 五番 大鏡寺
- 六番 大長寺
- 七番 善導寺
- 八番 運潮寺
- 九番 専念寺
- 二番 伝長寺
- 三番 最勝寺
- 四番 慶傳寺
- 五番 寶樹寺
- 六番 法藏院
- 七番 大善寺
- 八番 慶恩院
- 九番 長安寺
- 十番 大福寺
- 二番 天性寺
- 三番 正念寺
- 四番 西光院
- 五番 誓願寺
- 六番 専念寺
- 七番 一心寺
- 八番 白雲寺
- 九番 大雲寺
- 十番 西念寺
- 二番 善福寺
- 三番 圓通寺
- 四番 安樂寺
- 五番 圓通寺
- 六番 西住寺
- 七番 源聖寺
- 八番 宗念寺
- 九番 淨國寺
- 十番 淨念寺
- 二番 法善寺
- 三番 長安寺
- 四番 法善寺
- 五番 淨國寺
- 六番 淨念寺
- 七番 法善寺
- 八番 法善寺
- 九番 法善寺
- 十番 法善寺

【巡礼こたえ】 梅新交差点北西角にある大阪市道路局。江戸時代、諸街道の起終点は高麗橋だったが、その後、道路法の制定で国境が整備され、昭和27年に現在位置に設置された。国道1号線、2号線、25号線、26号線、163号線、165号線、176号線の終始点となっている。





# 現在に蘇る「大阪七墓巡り復活プロジェクト」

大阪七墓巡り復活プロジェクト実行委員会 代表

陸奥賢

七墓巡りは、近松門左衛門の『異教信七墓廻』、西村未達の『諸国心中』に登場するほか、井原西鶴の浮世草子『好色花巻』にも登場する。これも江戸中期の作で、このことから、七墓巡りが大阪でとても盛んだったことがうかがえる。【巡礼こねた】

「大阪七墓巡り」は江戸時代にあったという大阪の町衆の祭礼です。毎年、盆の頃になると市中郊外の七墓（梅田、南濱、葎原、蒲生、小橋、千日、鶯田など。文献によって墓が変わります。いろんな巡りかたがあったようですな）を巡り、「無縁仏」を供養したとか。いつはじまったかは不明ですが、近松門左衛門が「賀古教信七墓廻」という戯曲を書いています。この戯曲は元禄15年（1702年）の作品ですから、その頃には、すでにある程度は、大阪庶民に広く知れわたっていた風習なんやないか？ と思われます。

エンターテインメント、観光的な要素がごちゃ混ぜになっている。庶民的で、エネルギッシュで、カオスマスで、じつに大阪的な祭礼と言えます。ただ残念なことに明治以降は墓地の消滅やら、近代都市化によって七墓巡りはなくなっていました。大阪七墓巡り復活プロジェクトは、この失われた大阪の祭礼を現代風に復活させたらおもしろいんちゃうか？ というところで、観光家/コモンズ・デザイナー/社会実驗者の陸奥賢が中心となって、2011年から活動を始めたプロジェクトです。

おもしろいのが、將軍・吉宗が亡くなった頃に、喪に服すために歌舞音曲の類が禁じられるんですが、七墓巡りの連中は「うちらは無縁仏の供養のためやからええやないか」といった陳情書があるそうで、これがゆえに七墓巡りは歌舞音曲とともにやっていたということがわかります。また「七墓巡りをやります」と言うとき、夜通し大阪のまちを徘徊できるので、なかには酒を飲んで酔っぱらって寺で暴れるような輩もいたようで、苦言を呈している古文獻などもあります。昭和初期の文獻ですが「郷土研究上方」の「大阪探墓号」（第56号）には、七墓巡りの錦絵（当時すでに七墓巡りは廃れていたもので、これは想像図なんです）が収録されていて、これを見ると鉦を持った連中が、夜の大坂のまちを歩いていますが、なんだか陽気で、みんな表情が明るい。供養の巡礼で宗教行為ですが、アートや芸能、

戦後の高度経済成長期のイケイケ押せ押せの時代は終わって、今は少子高齢化の時代です。2050年には日本の人口は1億人を割り、3000万人以上も人が減るとか。当然、日本は経済的に没落していくし、限界集落は消滅し、都市の空洞化も進むことでしょう。子ども、跡継ぎがいまぜんからムラとか地域社会とか会社とかコミュニティといったものは淘汰され、崩壊していく。時代は閉塞していく、若者は孤独感を抱え、ひきこもりやらネット依存にはまり、老人もどんどん孤独死していく。要するに「無縁社会」に突入していくわけですが、こうした無縁がスタンダードとなる時代には、だからこそ「無縁者が集まれる祭礼」が必要なんやないか？ というのが七墓巡りを復活させる現代的意義と言えます。

基本的な祭礼というのは、コミュニティに所属しないと参加できません。岸和田



だんじり祭は岸和田の町内の人間だから曳行に参加できるわけです（最近ではヘルプも多いですが……）。ところが大阪七墓巡りは無縁仏を供養する祭礼ですから、誰でも参加できるという稀有な祭礼です。また、死んでしまった無縁者を供養しようと、生きている無縁者たちが集まるわけですが、七墓（毎年、徒歩で巡っています。約30キロで10時間ほどかかります）を巡っている最中に会話をはじめ、結果として有縁の関係性が生まれていき

ます。珍奇な祭礼なので若い男女の参加も多いんですが、じつは七墓巡りをキッカケに付き合いはじめたというカップルが何組もいます。なんと無縁仏が恋のキューピッドになってしまった（笑）無縁仏も喜んでるんやないか？ と思います（もしくは嫉妬してるかも知れませんが）。

思えば「無縁仏」という存在は、すでに死んでいる人間なので絶対に会うことはありません。自分とは何の縁も関係性もない存在であり、「他者中の他者」です。この無縁仏という「究極の他者」「絶対の無縁」に比べたら、今、生きている人たちは話もできれば、触れ合うこともできる。「無縁社会なんていうが、無縁仏に比べたら、そんなたいした無縁ではない」と思えたら、少しは、この無縁社会の生きづらさを解消できるかもしれません。

今年も8月15日（終戦記念日）に大阪七墓巡りを実施予定です。詳細はfacebookページをご覧ください。  
【陸奥賢】  
観光家/コモンズ・デザイナー/社会実驗者。1978年大阪・住吉生まれ、堺育ち。2008年に大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび」のプロデューサーに就任。現在は観光、メディア、アート、まちづくりに関するプロデューサーとして活動中。「大阪七墓巡り復活プロジェクト」他、新聞メディアの新しい可能性を探る「まわしよみ新聞」、尼崎をまち歩きと立ち飲みで盛り上げる「あますい!」、應徳院寺町倶楽部専門委員。NPO 法人大阪府高齢者大学校まち歩きガイド科講師。NPO まちらば代表など、多方面で活躍中。  
【大阪七墓巡り復活プロジェクト公式HP】  
<https://www.facebook.com/osaka7haka>  
2015年8月15日（終戦記念日）実施予定

## 太融寺 一願不動のお百度参り

いつの頃からじまったのか、もはやわからないほどの昔から、太融寺の一願堂にはお百度参りに訪れる人が絶えません。特に、女性が多いようです。こちらにいらっしやる不動明王は一願不動と呼ばれ、願いをひとつ叶えてくれると評判のお不動さんです。元来、神仏に祈願するために同一の寺社に百八日間（寺社によって百日間のことと百八日間のことがある。太融寺では百八日間）参拝するものですが、それが簡略化され、一日に百八回参拝するようになったのが、現在のお百度参りです。ただ、百八回参拝すればいいというものではなく、願いが叶うまで通い続けること。百八回という回数の達成が目的ではなく、祈願のために一回一回を気持ちよく進めることが大切です。お百度石をまわることが多いなか、太融寺



の一願堂は、不動明王の周りをまわるようになっていきます。これは、太融寺の一願堂が、お百度参りを前提として建てられているからです。まわる方向は、仏教の作法に則って、右まわりでね。（穂）

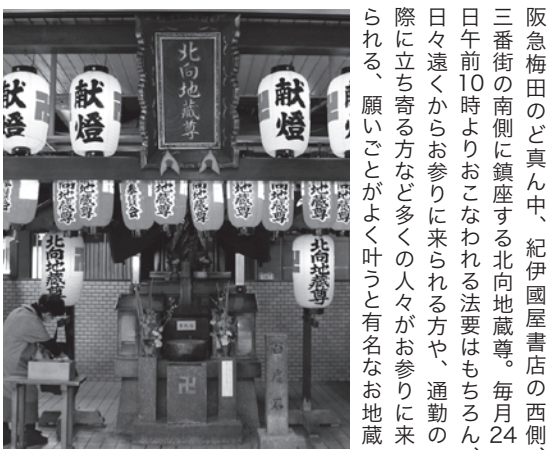
## 『曾根崎心中』 ゆかりのお初天神は恋の聖地

露天神社は別名「お初天神」。もちろん、お初と徳兵衛の心中事件『曾根崎心中』ゆかりの地であることから、その名がつけられています。金銭トラブルを巡り、死んで身の潔白を証明しようと決心した徳兵衛。好きでもない男に抱かれるお初。ふたりは夜、手を取りあって露天神の森へと向かいます。当時、遊郭に売られた娘を連れて逃げることは、死を意味していました。最後、どこにも逃げ場がなくなつたふたりは心中を遂げます。この時代、心中とは「真の心意」を意味し、特に男女が愛情を守り通すことを指します。



のようだったのかもしれない。お初天神の境内には、徳兵衛とお初のブロンズ像が仲睦まじく並んでいます。ふたりの三百回忌の折、「お初さんのために」と寄付があり、これをきっかけに地元の商店街などからも寄付金が寄せられ、2004年に建立されたものです。「恋愛成就のパワースポット」として、女性の参拝者が増加。恋愛成就を願う「美人祈願絵馬」が人気を集めています。（ル）

## 霊験新たか「北向地藏尊」は、なぜ北向き？



阪急梅田のど真ん中、紀伊國屋書店の西側三番街の南側に鎮座する北向地藏尊。毎月24日午前10時よりおこなわれる法要はもちろん、日々遠くからお参りに来られる方や、通勤の際に立ち寄る方など多くの人々がお参りに来られる、願いごとがよく叶うと有名なお地藏尊です。さんです。そんな北向地藏尊の由来は、明治24年（1891年）、この界隈が畑だった頃に土のなかから掘り出され、地主の方がお堂を北向きに建立されたことによります。昭和44年（1969年）、現在の阪急電鉄梅田駅、阪急三番街ができるに伴い、現在の場所に鎮座されました。北向きに建立するとお地藏さんが下座になることから、お堂を北向きに建てることは珍しいですが、こちらでは人々に寄り添い、通る人に心を配る、お参りに来た人々の願いや悩みをなんでも聞き受けるという謙虚な気持ちから、あえて北向きに建立されたといえます。私たちに寄り添ってくださる北向地藏尊。私たちが、願いごとを押し付けるのではなく、日々の感謝の気持ちを持ってお参りするのが大切です。（依）

## 能勢街道は巡礼の道でもあった

上方落語『池田の猪買い』の舞台で有名な能勢街道は、中津から池田を経て妙見山の能勢妙見堂にいたる旧街道です。十三、三國、庄内、服部、岡町、石橋、池田、木部、古江、多田、一の鳥居、そして尾根筋を通り、妙見山へ至る



ルート。現在では、旧街道に並行する国道176号線の大坂〜豊中〜池田間および国道173号線の池田〜多田〜能勢〜篠山間の通称としても使われます。江戸時代には、池田や能勢の酒、衣類、木材などがこの街道によって大阪へ運ばれ、能勢から奥に続く丹波国の米、栗、炭、銀、銅などの搬出路でもありました。また、終着地の能勢妙見をはじめ、沿道には服部天神宮、東光院（秋の寺）、原田神社、多田神社など多くの社寺が並び、さらには中山寺、勝尾寺などまで延びる参拝路として、大変な賑わいを見せました。通商と巡礼。両方の役割を担っていたからこそ、明治9年（1876年）、能勢街道は大坂府下で3本しかない一等縦貫線に掲げられたのです。中国街道（西国街道）と分岐する中津には、「元秋之橋」の石碑が設置されています。（ル）

【巡礼こねた】『曾根崎心中』には、「大阪三十三箇所巡り」のことが出てくる。第一番札所・太融寺から市内を時計回りに御書神社まで、29ヶ所の寺院で4ヶ所の神社を巡る。西国三十三箇所を巡ったのと同じ御利益があるとして、江戸時代に大流行した。



# 御朱印をいただくに詣りませう

巡礼の楽しみに、御朱印集めがあります。御朱印は、元來は、納経の証し。心を込めて書写した經典をお寺に納める際、確かに受け取りましたとお寺が証明するためのものです。ですから、誓願を立て、諸寺を巡礼する人々の間で、心の支えとして古來より大切にされてきました。御朱印は日本全国の多くのお寺でいただくことができますが、今では、神社でも、参拝の証しとしていただくことができます。

手書きであるために、いつ参拝しても同じものがいただけるとはかぎりません。いただく時期が違えば、墨書される文字や押される朱印の内容が変わってしまうこともあります。書き手が変われば、筆癖にも違いが出ます。また、墨絵が描かれていたり、独特の書の技法が使われている御朱印もあります。限定版もあり、この御朱印をいただきたい!と思ひ参拝しても、その御朱印に出会えないことも多々あります。御朱印集めのおもしろさは、そんな「めぐりあわせ」にあるのかもしれない。つひまぶでは、ほんの一部ですが、北区にある寺社の御朱印を集めてみました。(順不同)

## 御朱印をいただくには

御朱印をいただくには、まずは参拝。参拝を終えたら、寺務所・社務所に向かいます。窓口で「御朱印はこちら」と書かれている場合もあります。「御朱印をお願いします」と申し出ると、その場で書いていただけます。相場は一枚300円。金額が指定されていないところもあります。なんと無料のところもあります。(檀家さんのみ対応のお寺もあります。ご注意ください) 観光地の寺社では御朱印待ちの列ができる場合もあるので、参拝前に御朱印帳を預け、帰りにいただくのも一案です。一ヶ所で数種類の御朱印をいただけるところもあります。その場合は気に入った一枚を指定してもいいでしょうし、全種類を書いていただくことも可能です。大きなお寺になると、お堂ごとにそれぞれの御朱印が用意されている場合もあります。

御朱印は、ハガキ大のサイズの一枚の紙に書かれたものですが、集めたいという方には御朱印帳がおすすめ! 寺務所や社務所等で販売されていますが、最近では大手雑貨店でもかわいい御朱印帳を買うことができます。いただく楽しさもありますが、あとでまとめていろいろな御朱印を眺めるもの楽しいものです。

GOGO巡礼!



御朱印は、本来、参拝者が写経をお寺さんに納めた際にいただく印なので、右上に「奉納」と書かれることが多かった。現在では、納経しなくても参拝の証しとしていただけるので、「奉拝」と書かれる場合がほとんどである。「巡礼こねた」

Examples of 御朱印 (Shrine stamps) from various locations:

- 大夜天満宮 (Osaka Tenmangu)
- 阿弥陀如来 (Amitayus Buddha)
- 観音菩薩 (Kannon Bodhisattva)
- 南無釋迦牟尼佛 (Namu Shakyamuni Buddha)
- 宿命智通 (Shukumei Chitō)
- 露天神社 (Rokuten Shrine)
- 淀川天神社 (Yodoko Tenjingu)
- 南長柄八幡宮 (Nanchō Hachiman-gū)
- 八阪神社 (Yasaka Shrine)
- 阿弥陀如来 (Amitayus Buddha)
- 網敷天神社 (Nōshi Tenjingu)
- 天筆阿弥陀架 (Tenpitsu Amida-ke)
- 子母観音 (Shimo Kannon)

「巡礼こねた」大阪七福神めぐりは、今宮戎神社(スミナシ大神)、大國玉神社(白出大國神)、大兼坊(毘沙門天)、法楽寺(弁財持天)、長久寺(福徳尊)、三光神社(寿老神)、四天王寺布教堂(我孫尊)、江戸時代、大阪町人たちの間で自然発生的に生まれた。



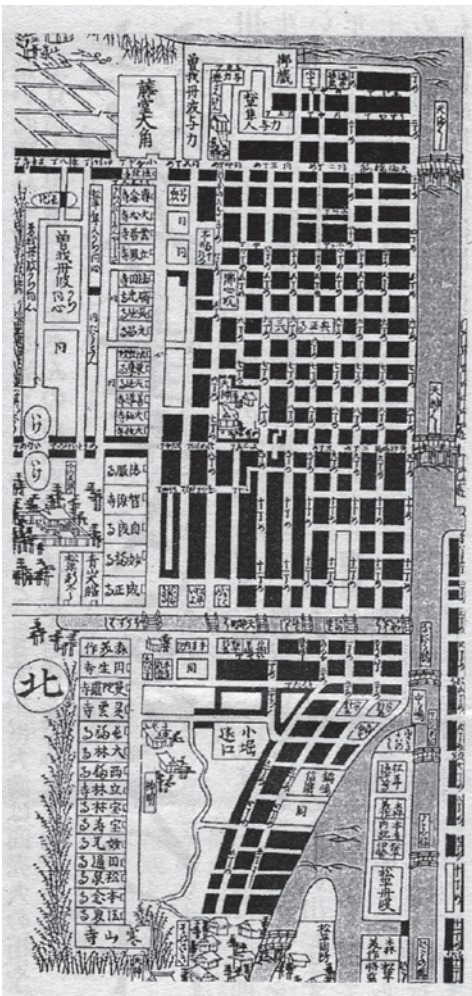
現代に残る、かつての名残

# まちの記憶

## 天満のお大師まいり（お大師っさんの日）

祭屋梅の助

# 井上彰



明暦3年（1657）発行『新板大坂之図』天満寺町部分

### 天満寺町の恒例行事

今年は大坂の陣から数えて400年の節目にあたりますが、夏の陣（1615年）の後に大坂城主となった松平忠明によって大坂の市街地は復興され、都市計画により市中には11の寺町が形成されました。

天満東寺町の専念寺ご住職木村啓良さん曰く、「寺町は大坂城防衛の砦だったんです。寺は大勢が一度に寝泊まりできて食事の用意もできる。それに寺の塀は外から見ると高いが、内側は盛り土がしてあり、敵を迎え撃つのに都合の良い構造だったんです」。

専念寺は天正11年（1583年）に大坂松江町（現在の中央区）に創建され、寺町形成のため元和2年（1616年）に天満に移りました。

明暦3年（1657年）発行の『新板大坂之図』によると天満東寺町には、法教寺・専念寺・大心寺・雲居院・立界寺・法円寺・瑞光寺・長徳寺・九品寺・寶珠院・栗東寺・天徳寺・善導寺・大仙寺・大教寺・法服寺・智源寺・自成寺・妙福寺・成正寺。そして天満堀川にかかる寺町橋を渡った西寺町には、円生寺・曼荼羅寺・冷雲寺・長福寺・大林寺・西福寺・立林寺・宝林寺・宝寿寺・妙光寺・円通寺・松泉院・本念寺・法界寺・寒山寺、の35ヶ寺が記載されています。

その天満寺町では毎月21日になると、弘法大師信仰の巡礼である『お大師まいり（通称お大師っさんの日）』が恒例となり、たいそうにぎわいました。

大阪の地誌『てんま』や『キタ』の著者でもある宮本又二先生は、お大師まいりについてこんな記述をしておられます。



浪花百景／四天王寺（芳雪画）  
若き日の弘法大師は四天王寺に詣で、彼岸に西門の入りて拜む日想観を体験されたと伝えられることから、弘法大師の月命日に。



浪花百景／梅屋敷（貞信画）

どんどろ大師（天王寺区空堀町10番19号）本尊は弘法大師の高野山真言宗の善福寺。下総国・古河（現在の茨城県）藩主であった土井利位（どいとしつら）が大坂城代に在任中（1834～1837）にこの近くに屋敷があり、弘法大師に深く帰依する利位が日々参拝していたことから、善福寺は「土井殿の大師（どいどののだいし）」と呼ばれた。それが訛ってやがて「どんどろ大師」と呼ばれるように。



戦前の東寺町（寶珠院前）  
戦前の天満寺町の道幅は今よりも狭かった。葬儀の写真ではあるが、昔の様子を伝える貴重な記録。



『お大師まいりでは、寺町のお寺は宗派に関係なくそれぞれの大本尊をお祀りできるようにしてありました。戦災以前、専念寺には薬師堂がありましたから、そこを開いていました。  
みなさんお米やお豆やお賽銭などを持ってお参りされるんですが、昔のウォークラリーといったところでしょう。これといった娯楽もない時代ですから、随分遠くからでもお参りに来られたようですよ。  
おもしろい話を聞いたことがあります。人出を当て込んで寺の山門前にはおこもさんが座るんですが、その時におこもさんは町家に子どもをレンタルしに行ったらいいんですよ（笑）。子ども連れだとお金の入りがいいんです。子どもたちも小遣いがもらえるから喜んで座りました（笑）。』

【井上彰】  
昭和24年生まれ。キタを舞台にした伝説のフリーペーパー「あるっく」の編集・発行人。取材、執筆、編集、広告営業のみならず、果ては自転車に乗ってポストインまでこなしたスーパーエディター。「あるっく」はやがて「天満人」に発展し、発売1ヶ月で初版3,000部を完売するも、平成7年に惜しまれつつ休刊。その後イタリア風食堂『祭屋梅の助』を5年間続け、平成27年3月にリセット。生き方を整理しながら『天満人』の続編発行を計画。

【祭屋梅の助】  
大阪市北区天神橋1-14-8  
tel.090-3058-8947  
夜のみ完全予約の社交場。詳しくはお問い合わせを。

大西國男さん（大正9年生まれ・菩提寺は寶珠院）は、『戦前の天満寺町の道幅は今よりも狭く、十丁目筋（天神橋筋商店街）から谷町筋までの間に辻は2ヶ所しかありませんでした。寶珠院の東と龍海寺の西の道だけが南北に抜けられました。お大師っさんの日にはお寺の塀に沿って、縁日がずらりと並びます。途中で、お寺の接待があつたんですが、寶珠院では、湯呑みにおかきを入れてお茶を注いだものが無料で振る舞われました。龍海寺さんでは、かやくごはんの用意をしておられました。朝早くに太融寺を出発して、西寺町から東寺町のお寺を順に巡り歩くと、ちょうど龍海寺さんのあたりでお昼になります。お腹が空いた頃に、わずかなお金でかやくごはんが食べられました。

1月21日の初大師の時だけは、紅梅町の天満花重のあたり（紅梅温泉の前）で、かす汁が振る舞われました。  
専念寺の木村住職は、『お大師まいりでは、寺町のお寺は宗派に関係なくそれぞれの大本尊をお祀りできるようにしてありました。戦災以前、専念寺には薬師堂がありましたから、そこを開いていました。』

昭和20年の空襲で天満寺町のほとんどの寺院が戦災を受けたこともあり、戦後はお大師まいりの風習も廃れてしまいます。天満寺町の寺院も移転などで現在は22ヶ寺となり、今ではお大師っさんの日を知っておられる方もめっきり少なくなっています。

確かに、これといった娯楽のなかった時代に、お大師っさんの日」は、庶民にとつてのレクリエーションであったことは確かでしょう。けれども、往時の庶民の誰もがあたりまえに、信仰心を持ち合わせていました。お大師まいりも、単なる行楽ではなかったはず。

毎月21日には脚に甲かけ、右手に数珠、左手に鬱金（うこん）の米袋をさげた善男善女が、北は天満の寺町から南は梅やしき、四天王寺にかけて巡礼の行列をつくったものだ。弘法大師が承和2年3月21日に寂滅されたからだ。寺町筋はその御幸通りであった。寺々でうち出す鉦や鉢の音、御詠歌にまじって「南無大師遍照金剛…」の聲がひびく。

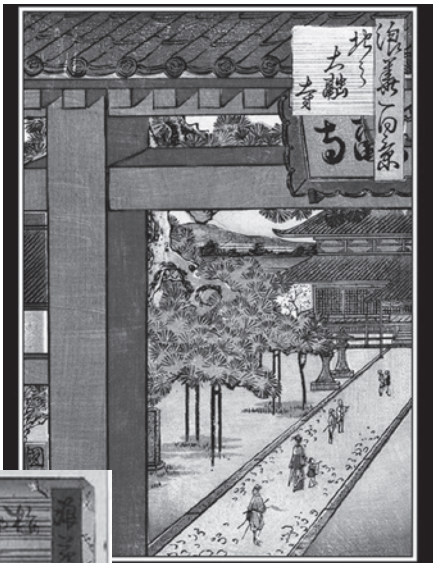
### 庶民の思い出『お大師っさんの日』

私が「あるっく」「天満人」で天満に昔からお住まいの方々にお話をうかがった時には、どなたもが「お大師まいり」の思い出を懐かしそうに話してくださいました。

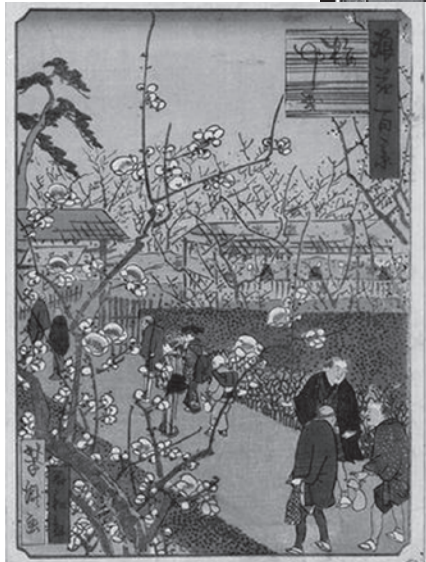
天神橋筋三丁目商店街のたまいち土居陶器・土居年樹さんのお母様、土居玉江さん（大正2年生まれ）は、

『お大師っさんの日イには、寺町のお寺は仏像をみな表へ出して並べてありますねん。寺町筋には縁日がずら〜あつと並びます。人出は太融寺さんからはじまって、門前に置かれた餅箱にお米やお賽銭を供えながら西寺町から東寺町へ、寺々を順番にまわって歩きます。いちばん東の専念寺さんまで来ると、空心町（今の東天満）から市電に乗って天王寺の『どんどろ大師』に向かいます。

お大師っさんの日イはお米屋さんや流行ってましたなあ。お供えの米はみなさん家から提げて来やりますけど、なくなつたら買わなあきませんよつてにねえ（笑）。お寺はお供えの米でひと月は暮らせたと言われますが、実際はいろんな米が混ざるよつて、おいしいことなかったようですよ（笑）。』



浪花百景／梅やしき（芳瀧画）  
高津神社、生国魂神社の東にあり、江戸亀戸の梅屋敷を模してつくられた庶民の憩いの梅林。



浪花百景／北の太融寺（国員画）  
北野にある真言宗の古刹で、建立は源融。開基は弘法大師。



キタのええもん

キタの手みやげ

grano-ya by Calbee



「grano-ya」  
【所在地】大阪市北区梅田  
1-13-13 阪神梅田本店B1F  
【tel】06-6345-1201 (代表)  
【営業時間】  
日～火・祝/ 10:00～20:00  
水～土/ 10:00～21:00  
【定休日】不定休

春です。新生活をはじめ方も多いこの季節。なかにははじめたくなるこの季節。新たなスタートダッシュに、朝食を変えてみるのはいかがですか？

今回は、ごはん・パンに次ぐ第3の朝食を目指す、カルビーの「グラノーラ」をご紹介します。カルビー唯一のグラノーラ専門店「grano-ya」が、阪神百貨店地下1階の食料品売り場の一角にあります。

カルビーのグラノーラといえば「フルグラ」を思い浮かべる方も多いと思いますが、「grano-ya」で売られているものも、同じグラノーラです。

専門店らしさは、トッピングにあるのでした。常時13、18種類のトッピングが用意されていて、自在に組み合わせることができます。店頭と並んでいる色とりどりのフルーツやナッツを眺めていると、小躍りしたくなりますよ。迷ったときは、定番ミックス2種類、もしくは季節ミックス2種類のなかからどうぞ。一番人気は、定番ミックスの「アサイーベリーミックス」！今注目のアサイーと、バナナ、ブルーベリーのミックスです。じつは、アサイーやブルーベリー、ナッツ類は、市販のフルグラには入っていないのです。なので、ここでしか味わえないトッピング！

ミックスタイプにはあらかじめ3種類のトッピングが入っていますが、2種類までトッピングを追加することができます。また、上級者向けには、5種類すべてのトッピングを自

在に選ぶことができる「マイグラノーラ」も私の大好きな「いちごだけを5杯」という配合もできちゃうわけです(笑) トッピングなしのグラノーラのみ購入も、もちろん可能です。「grano-ya」には、「自分でオリジナルのグラノーラをつくれる、スーパーで買うのとは違う味わいを楽しんでもらいたい。朝食にもおやつにも」と、フルグラを発売して26年、日本のグラノーラの第一人者であるカルビーの熱い思いが込められているのです。

そもそもグラノーラは、穀物の加工品であるシリアル的一种。今でこそ、専門店があちこちにあります。カルビーがフルグラ(当時はフルーッグラノーラ)を発売した当初は、シリアル自体、朝食としては手抜きイメー

ジが強く、母親に罪悪感を抱かせるとしてなかなか受け入れられなかったと言います。「食べればおいしいと言ってもらえる」ことから、試食販売や新しいレシピの案内など、ライフスタイルの提案までを含めた地道な活動を続けてこられたそうです。それが実を結び、ここ2、3年のグラノーラブームも手伝って、今では売切れが続くほどに。発売してから20年を過ぎてからのブレイクとなったのです。

海外では朝食の定番となっているグラノーラを日本でも。阪神百貨店・カルビー両者のその思いが重なり「grano-ya」は誕生しました。大阪から、梅田から、新しい朝食の定番グラノーラの発信を。あなたも試してみませんか？(穂)



第三回目

### 越すに越されぬ梅田の交差点

昔、扇町で仕事をしていた頃。西宮から何度か、自転車で通勤してみたことがあります。片道およそ19キロ、1時間くらいかかりました。国道2号線をひたすら東へ向かって走るので、途中に2種類の「難関」がありました。ひとつは、河川。といっても「橋がないから泳いで渡らなければならない」なんていうストロングスタイルな難関ではなく、単に橋の上り下り、坂道がしんどい、っていう割と軟弱な難関です。西宮を出てすぐに現れる武庫川の橋が一番傾斜がきつ、通勤路中盤を越えたあたりに出てくる淀川の橋は傾斜はさほどではないものの距離が長く、このふたつが「橋難関」の二大巨頭でした。他にも逢川や神崎川など、大小7つの橋を渡らなければなりません。7つの橋を越えてやって来た、と言ふとなんとなくつこよくないですか？

もうひとつの難関。これは、「人難関」です。福島を越えたあたりからはじまるもので、梅田界限がピークになります。そう、平たく言えば「人混み」です。歩道を埋め尽くす通勤サラリーマン、車道にあふれる仕事クルマ。曲がり角や柱の影から飛び出す歩行者や自転車。橋難関は体力で乗り切れますが、人難関は精神力が激しく奪われます。

しかしまあ、このように東西に横切るだけだと、まだ梅田も乗り切れなくはないのですが、もっともっと難儀なのは「梅田を自転車で南北に横切る」というシチュエーションです。たとえば、旭屋書店のあったあたりからヨドバシカメラへ向かいたい、という場合。これ

ないでしょうか。

歩きだしたら、阪神百貨店側へ渡って歩道橋を越えるか、あるいは曾根崎警察署前から地下へ潜ってホワイティ経由で行くのがほぼ正解でしょう。しかし、どちらのルートも自転車にとってはかなりエクストリームな運動、聲に負けない鋼の精神力もしくはナイロンザイルの無神経が要求されます。

体力に満ちあふれた人であれば、自動車に混じって車道の真ん中を強行突破する、という向こう見ずな選択もなくはありません。しかしこれもまた、かなりデンジャラスです。

正しい方法はおそらく、あの狭い歩道を押すなりして曾根崎警察署前をまわり込んで、お初天神通の信号を北へ渡り、ナビオ(今は阪急メンズ館)前の横断歩道から阪急百貨店を南に巻くルートでしょう。

(おじまあき)



駅探  
えきたん  
なにわ橋  
Naniwahashi

### 地下に太陽が届く駅

区内で一番新しい鉄道『京阪中之島線』にある「なにわ橋駅」に、ちょっとおもしろいものがあるのをご存じですか？

4番出口のすぐ裏手にある丸いドーム型の見慣れない装置。内部にはたくさんレンズが蜂の巣状に組み込まれており、どうやら光を集めているようです。説明板には、「太陽光採光システム。集光機のレンズで集めた太陽光が、ファイバーケーブルを伝って地下コンコー

スへ導かれています」とありました。しかし、どのあたりに光が届いているのでしょうか？ 詳しい話を京阪電車の人に聞いてきましたよ。

お聞きすると、このシステムで集めた光は、駅コンコースの改札外にある12個の照明に使用されているとのこと。地下駅で初めて本格的に採用された木の壁(「ご存じ?」)は、この集光機によって集められた光によって照らされているのです。ハイテク技術を駆使して、太陽の光が届かない地下へ送り込んでいるのだと思うと、見えないところに工夫がいっぱい施されていることにうなずいてしまいます。

備わっており、少しずつ角度を動かして効率よく光を集めるようになってくるんだそう。考えられてるんだな！

この「太陽が届く駅」は、お隣の「大江橋駅」でも採用されています。こちらは専用のダクトを設置し、そのなかに鏡を張って、光を反射させながらコンコースに届けているとか。効率がよく、かなり明るい光が届くそうですよ。

『京阪中之島線』にはこういった環境に配慮された設備が多く、周辺のビルと一体で運用する地域冷暖房(「渡辺橋駅」)や、川の水を利用したヒートポンプ式冷房(「中之島駅」「大江橋駅」「なにわ橋駅」)など、たくさんあるアイデアが詰まっています。これらを実現するのは大変だったんじゃないですか？ とたずねると、「公共交通機関の使命として率先してやっている」という力強い言葉が返ってきました。

頭が下がります。(なみはやノーツ)



北区  
モノづくり  
最前線

第三回目

### 中崎町からハンドクラフト木製品を発信 MAEDA CRAFT 前田製箱(株)

MAEDA CRAFT のペット商品「マルシェワゴン」は、それぞれフランスのマルシェで出会うような温かみのある木製のワゴンで、このワゴンに商品が並んでいると、店内全体がワクワク感であふれてきそうです。

今回は、そのような什器から箱までさまざまな木製品をハンドクラフトで製作している、中崎西四丁目の前田製箱(株) 代表取締役・前田雅範さんにお話をうかがいました。

先代までは、工作機械や大型設備を輸送するときの木箱梱包や木枠梱包をする製箱会社でした。中学生の時から休みの日に手伝いをさせられていたため、前田さんは必然的にクラフトマンシップを培っていきました。でも当時は家業が嫌いで、一度は家を出て異業種のサラリーマンになったのですが、それでも相変わらず休みの日には手伝いに駆り出され続けて、周囲の職人から信頼されていると感じたときに、後継を決意したそうです。

その後、社長に就任して、新しいことに挑戦したいという思いから新事業への転換を図りましたが、大手DIY量販店への木製品の売り込みや、飲料メーカーのグッズのライセンス生産という事業をおこなったとき、ユーザーが本当に求めているものを直感して商品化できる対応力がなければ、継続して支持してもらえないと感じたそうです。

そして、独自のアイデアを具現化できる熟練の職人が、良質な素材や塗料で心を込めてつくった商品売り出すことを考え、前田製箱製の商品ブランドを「MAEDA CRAFT」としました。CRAFTとは「直訳で「技能」「技術」「手工業」なのですが、MAEDA CRAFTの職人の肩



ヒット商品「マルシェワゴン」と前田さん。ワゴン上部にある木の切り文字もハンドクラフト製品。

書は全員「クラフトマン」。自分の技能の押しつけで製作するのではなく、顧客からあった10の要望を20にして製品に反映させて、提案できる能力を高めてほしいという前田さんの思いが、ここに表れています。だからクラフトマンはサービス業なのだ、とも。

発信元が中崎町であることにも誇りを持っていて、地元への思いも人一倍です。町会長として「中崎町ホール」の運営にも取り組み、地域のつながりの大切さを強く感じています。

「昔から職人が言ってきた「コツ」なんてものは、「ちょっとしたコツ」。作業をマニュアル化して平準化すること、次世代にモノづくりの大切さやおもしろさを伝えていきたい」と語る前田さん。中崎町で見つけたモノづくりの現場も、しっかり次世代に継承していきたいそうです。(MIKAWA)



2月4日、BSジャパン「徳光和夫の名曲にっぽんご当地ソング&テレサテン没後20年4時間スペシャル」に、大阪・梅田の居酒屋「樽正」の女将として出演。今は亡きご主人との思い出を語られる難波潔子さんが、そこには映っていました。

名物女将である潔子さんは、北野界隈の生き字引であるだけでなく、「昔よくお世話になった」「卓球がめっちゃ好き」「運転がうまくて警察で銅賞表彰されたんだって」「絵がうまいよね」「餅つきのプロー」など、いろんな人の口から数々の逸話が飛び出すほどの存在でもあります。

テレビを通して見る潔子さんは、小柄で、涙もろく、芯の強い方に見えました。

実際はどんな方なのか。

まちで噂の潔子さんにお会いしてきました。結婚後、堂山町で待っていたのは

激忙の日々

岡山県日本原生まれ。高校を卒業後、神戸で就職。結婚を機に北区の人になりました。ご主人とはお見合い結婚。

同郷のご主人とは、親のすすめで出会いました。「田舎が同じなので、どこのどんな家の人なのかは、なんとなくわかるよね。田舎ってそういうところよ。初めてのデートは、ひらかたパーク。結婚の話はすぐに決まっただね。2月6日、私の誕生日に結婚を交わした」そうです。

「嫁ぎ先の両親からは首と手が太いからよく働くと思われたんだろうと思う（笑）」と、実際に、高校を卒業してからずっと働きづめだったとおっしゃいます。

昭和41年創業の居酒屋「樽正」は、堂山町のにぎやかな通りの一角にあります。店頭

にあるたこ焼、串刺しのどて焼、おでん、ナポリタンそばなど、お客さんから圧倒的な支持を受ける名物料理のほか、季節の魚野菜、山菜をふんだんに使った一品料理もたくさん。毎日通いたくなる気取りのないお店で、連日満席の超人気店です。

お店では、連日満席の超人気店です。潔子さんは、この店で、子どもを背負って働いてきました。「今はもうそんなことできないね。子どもを背負っていたら、お客さんが退いてしまう。そんなことができたのは昭和までだね」と。

当時の堂山町は、「今と違って、さみしいところよ。家ばっかりで、お店といえは、うちとほかに3、4軒くらいしかなかった。街灯もないし、お化けが出そうなくらい」。

「お客さんが来ると太鼓を叩くことで有名な料亭『北大和』、子どもが庭で遊んでいた『霧島旅館』、大阪を代表するジャズ演奏の拠点だった『クラブアロー』などがあるきり」だったそうです。

当時の難波家のご自宅は、お店の裏。お店の奥座敷が4人のお子さんたちの居場所でした。お客さんが子どもたちに声をかけたり、食べさせてくれたり、よく面倒を見てくれたりしたらしく、「子どもたちはみんな、お店で育ったようなもの」なんだとか。

当時、お店は2軒あり、ランチの営業もしていました。昼夜を問わず働き、「子育てどころか、寝る暇もなかった」。職場と生活の場が混然一体となっていた難波家では、お店のカウンターが食卓代わりで、普通の家庭にあるような台所はありませんでした。長男の啓祐さんが小学校6年生の頃、「台所でご飯を食べたい」と駄々をこねたそうです。仕方なく、寝屋川にいた潔子さんのお友だちの家へ連れて行ったところ、初めて家庭の食卓を目の当たりにした啓祐さ

んは、激しいカルチャーショックを覚えたとか（笑）

ご主人は「飲む打つ買う」の三拍子そろった御仁。なんと、闘鶏をされていたそうです。軍鶏を闘わせる競技です。当時、難波家には2階建ての鶏小屋があり、40羽ほどの軍鶏を飼っていました。そんなこともあり、とてもお金のかかるご主人だったそうです。「働いても働いても、みんな使ってしまうからね」としみじみ話されます。そんな潔子さんですが、こんなことさせられた、イヤな思いをした、といった不満がひとつも出てきません。よく耳にする、主婦のグチのようなものが、ひとつもない。インタビュ中に、そんなことにハタと気が付きました。

厳しい境遇の本当のところは周囲にはうかがい知れませんが、どんな状況でも常にありのままを受け入れ、そのときそのときの最善を尽くされているように見えます。前を向いて、へこたれるということがない。世話好きで、じつとしていられない性分も相まって、忙しい日々は性にあっていたのかも知れないですが、それでも、無限のポジティブさには驚かされるばかりです。

仕事と子育ての日々

息抜きは山のなかで

4人のお子さんたちは、みんなお店育ち。お店があるからと、誕生日のお祝いやクリスマスといったイベントごとは一切なし。「おやつもなしで、果物を食べさせてこなかったから、うちの子たちは今も果物は食べないね」と少し残念そうに話されます。

子育てについてうかがおうとすると、インタビュー中、横にいた長男の啓祐さんと次女の康世さんから「お母さんは子育てでなくてはいけません！」とすかさずちゃちゃが入るほど（笑）。子どもたちからすると、仕事に追われている親だったのでしよう。潔

もかわらず、今でも泊めてもらえるほど仲良く、学生時代の友人とつながっています。「こと岡山があるから、息抜きができてい」とも話されます。

世話好きな性分は、地域にも

仕事と家族の世話に明け暮れていた潔子さん、家庭と店の外に出て、地域の活動にかかわるようになったのは、ご主人が亡くなってからのこと。それまでも、花を植えるボランティアや、地域のママさんパレードには参加していましたが、家族の世話がひと段落し、自由な時間が増えた今では、より積極的に活動をしています。

たとえば、北区社会福祉協議会で実施している「まちともサービス」では、サービス開始直後に最初の利用者となりました。高齢者にかぎらず、障がい者、産前産後や子育て中の方、病気やケガにより援助を必要とされる方や福祉サービスを必要とされる方を対象とした、会員制の住民参加型有料在宅福祉サービスです。この手の制度やサービスは、浸透するまでに時間がかかりそうなのですが、潔子さんは率先して利用します。

「まずはやってみる、やりたいことを提案してみよう」。ここでも前向きな潔子さんは、チャレンジ精神にあふれた人でもあるのです。制度やサービスは、つくるのも大切ですが、実際に使ってこそ意味が生まれます。いち早く制度やサービスを利用しようとする潔子さんのチャレンジ精神は、貴重です。ほかにも、単身住まいの高齢者向けの食事サービスでは、手づくりのお味噌汁を用意。買ってきたお弁当だけですまさないところに、食に対する思いと細やかな気配りを感じます。

堂山町会の駐輪場「ウメチャリ」運営事業で壁面の落書き消しをおこなった際、真っ白に塗り直されたままの状態が1ヶ月ほど続きました。その間に新たな落書きをされ

子さんご自身も、「とにかく、食べさせることに必死だった」と話されます。

それでも「休みの日には子どもを連れて、海や山へ行ったりしていた」のだから。堂山町というまちなかに暮らしながらも、自然のなかに身を置くことをやめられなかった潔子さん。子どもの遊びのためだけでなく、田舎育ちの自分たち夫婦の息抜きも兼ねていたそう。当時、趣味の山菜採りや畑仕事もしていました。山菜採りには集中力と根気が必要だし、畑仕事は世話好きでないと続けられません。まさに潔子さんの性格を表した趣味とも言えます。

畑には今でも週に一度は通っています。山菜は、季節によって採れるものも採れる場所も変わります。山菜採りの名人には自分だけの場所があり、他人には教えないと言います。潔子さんにも例に漏れず言葉が濁されましたが、どうやら、関西一円の、かなり遠方まで足を延ばされているようです。上級よりさらに上の銅賞表彰されるほどの運動の腕前を持つ潔子さんなので、今でも家族を引き連れ山菜採りに出かけます。量にすると少しの山菜を採りに、片道数時間かけて山へ向かう。好きならばこそ苦にならないませんが、「連れて行かれる家族は大変」との声も聞こえてきます（笑）

そんな啓祐さんの発言がありながらも、難波家は家族が密着していて、とても仲良しです。子どもたちが小さいときから親の働く姿を間近にし、その苦労を見続けてきたからにはかたじけなくありません。身近な家族が一番の理解者となっていることで、潔子さんは強く、生き生きとしているのだと感じます。山菜といえは、昨年末におこなわれた堂山町会主催の餅つき大会にて盛大に振る舞われたよもぎ餅のよもぎは、なんと潔子さんが岡山で採ってきたものでした。

生まれ故郷である岡山には月に一度は帰ります。「泊まる場所はいろいろあるよ。友だちがいるからね。仲良しが待っていてくれる」と。高校を卒業後、田舎を離れたくないか心配し、ちょくちょく様子を見に行っていたそうです。誰に頼まれたわけでもないのに、なんとなく気になって動いてしまう。そんな世話好きなどころは、家族に対してだけでなく地域にも及んでいます。

齢72にして、

今日も明日も走り続ける潔子さん

昨年、潔子さんは「樽正2」をオープンさせました。

「自分がいなくてもしつかりやっていたようになった」ので、「樽正」から身を引かれたのだから。とは言え、仕入れに中央卸売市場まで行くのは相変わらずで、完全に手を離れたというわけでもない様子。

「樽正2」は、「樽正」から徒歩1分の場所にあります。カラオケがあり、常連さんの2軒目のお店として、また「樽正」が満席になったときの別室ともなっています。「樽正」を代替わりしただけでなく、新たに自分の居場所をつくってしまったのです。どんな事業でも、後継者を育てることと代替わすることは簡単ではないと言います。精神的に活動してきた人であればあるほど、難しいと言います。その点、潔子さんはあっさりとしたものです。これって、すごいことですよ。しかも、隠居するわけでもない。

今でも睡眠時間は短く、朝から人の何倍も動いています。お店以外にも、地域での活動や、趣味の山菜採り、畑仕事に絵画；、忙しさはそのままの日々です。その動きを支える体力も、衰えてはいません。齢72にして、自転車で転倒すれば骨折してもおかしくはありませんが、「なんともなかった」と笑って話されます。小柄ながら骨太でタフな潔子さん！

全力で、泳ぎ続けたいと生きていけないマゴロのように、今日も明日も、走り続ける潔子さんなのでした。すこ〜い！（終）



聞き手・書き手／棚橋真理 撮影／浅香保ルイス龍太

世話好きなのも忙しいのも、  
性分。  
じつとしていられないのよ。  
死ぬまで治らんね（笑）